

(前住議員) はい。皆さん、こんにちは。

(議場の人) こんにちは。

(前住議員) 1番前住孝行です。暑さ寒さも彼岸までと言いますので、これで最後の雪になるのかなというふうに思います。インターネット中継で視聴されておられる方々、ありがとうございます。3月11日に起きた、東北関東大震災で被害に遭われた方々にお見舞いとご冥福をお祈りいたします。改めて、自然災害の怖さについて考えさせられました。ニュースを見ていて、私自身も今朝、気持ちばかりの義援金をさせてもらいましたが、他にも何かしらの支援を考えているところです。我が若桜町でもいろいろな災害を考慮して防災対策を万全にしていくことの必要性も感じました。午前中にも少しありましたが、今年度中にできる予定のハザードマップを活用して、各家庭からの避難場所を確認したり、物資供給の方法や効果的な情報の出し方をより詳しく検討したりする機会にしたいと思います。

それでは、通告させてもらっています3点について質問させていただきます。

まずは、スキー場の環境整備についてです。氷ノ山の陳情のアルパインゲレンデからいぬわしリフトまでの融雪についてはとても好評のようで、お客さんはもちろん、近隣の関係者もとても満足されています。しかし、いぬわしリフト下からヒュッテ白樺さんまでが、大雪のときの融雪がうまくいかないようで、今は、前のままになってしまっています。再考の案をお尋ねします。

(岡本議長) 答弁を求めます。小林町長。

(小林町長) はい。只今の前住議員のいぬわしリフトからヒュッテ白樺までが大雪のときの融雪がうまくいかないようなので、再考の案を伺うということでございますけども、ご存知のように昨年、スキー場関係者よりスキー場内の道路の除雪対策について陳情を受け、今シーズンはこれまで行っている機械除雪でなく、道路に水を流して消雪する融雪工法を実施した結果、好評をいただいて、喜んでいただいております。議員ご指摘のとおり、一部改善の余地があるところでもございます。ご指摘の区間においては、道路勾配の急なところは、上手に行きました緩やかなところで雪水が淀み、床下浸水を招きそうになったため、融雪工法を取り止め、従来の機械除雪に切り替えております。その原因は第1駐車場入り口付近の道路勾配が緩やかなため、上からの雪水がその部分に残留したために生じたものであります。これの改善策として考えられることは、取水量の調整ができるようにすることや、横断溝の設置、さらには道路勾配の修正等も考えられますが、いずれにしてもスキー場関係者の方々に状況等の聞き取りを行い、来シーズンまでには改善策を講じたいと、このように思っておるところでございます。一部、本当に関係者の皆さんに喜んでいただいているというようなことでございまして、私もやって良かったなと嬉しく思っておるような次第でございます。

(岡本議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。本当に、最終的には良いものになれば良いと思いますので、先程も町長の言われたように、周辺の方の意見を聞きながら適切に進めていって

ただければと思います。

2つ目に入ります。指定管理に出している若桜観光開発事業団の管轄することに対して、町長として次の点について、どうお考えか質問させていただきます。子育て世代になって改めて感じていることとして、乳幼児を連れてスキー場に行ったとき、おしめを替えたり、子どもを休ませたりする場所があったらなというふうに思います。友達の家族も同じことを話しています。このことについての所見を伺います。

(岡本議長) 答弁を求めます。小林町長。

(小林町長) はい。氷ノ山のスキー場に子育て世代に配慮したおしめを替えたり、子どもを休ませたりする場所の必要性、託児所の必要性について所見を伺うということでございますけども、指定管理をいただいている若桜町観光開発事業団からも、前任議員のご提案のような意見は出ております。町営スキー場の施設整備となりますと、当然、町が行っていくべきだと考えます。おしめを替える場所などは、近年いろいろな施設に設置されてきておりますし、ご家族で楽しんでいただけるスキー場にするためにも、整備に向けて検討してみたいと思います。ただ、託児所など子どもを休ませる場所となりますと、人的にも物的にも相当な費用を要するものですので、今後しっかり検討してまいりたいとそのように思っておりますのでございます。

実は、余談ではございますけども、最近、若者のスキー離れが多いということでございまして、幼児のときから雪遊び、そういうものに親しめるスキー場はどうかというようなことが若桜、大山、伯耆、日南、江府の5町村の町長がこの前も話し合いをしました。何か県と一緒にやってキャンペーンを出したらどうかあというようにございまして、おじいちゃんやおばあちゃんとスキー場で雪で遊ぼうとか、そういうようなキャンペーンでもいいじゃないだろうかというようにございまして、そして、来られましたら何か特典を与えると、あるいは、昼飯でも無料サービスするとかいうようなこと、こういうようなことも県を巻き込んで、鳥取県の5つの町のスキー場がキャンペーンを出したらどうかあ、そういう話もしたような次第でございまして、ちょっと伯耆町の町長の方に、あんたちちょっと担当でやってみたらというような話も出てきてございまして、今年度はそういうことも関係町村が集まって、県と一緒にございまして、具体化をしたりして、一大キャンペーンもこれからは出していかないといけないなという具合に思っております。

それからやっぱり今、ちょうどこのおじいちゃん、おばあちゃん方のときは、スキーはすごく盛んだったわけでもございまして、もう1回こういう方がスキー場に戻って来てほしいというような、全日本スキー連盟の運動なんかも出てきておりますけども、なかなか地につかないと話を聞いておるような次第でございまして、なんかそういうものも、これからは出していかないといけると、そのように思っておりますのでございまして、非常に私も関心を持っておる次第でございまして。

(岡本議長) 前任孝行議員。

(前任議員) はい。県まで広がるような事業を考えられておられて、本当にいいなというふうに思います。この度の補正の方で、保育所の方に移動式のおしめ替え

台というのを購入されることになっていました。そんなのでも使えるようにすればいいんじゃないかなというふうに思いますので、そういったものも考えてみてください。それと、そういったキャンペーンとかをされて、よりよい環境ができたらいいなと思います。

では、次に移ります。スキー場と町民とをつなぐ方法についてです。氷ノ山での各スキー大会では、さまざまな面で協力され、関係者の皆さんもありがたく思われていることと思います。大会役員をしている人から、地元選手がとても少ないので残念だという声を聞きます。西日本でも自慢できる若桜の氷ノ山だけに、もっと町民が頻繁に利用できる環境があれば、町民ももっと身近に氷ノ山を感じることができないのでしょうか。ちなみに、大山町さんは、高校生までは全額ただでリフトに乗れるそうです。このことについての町長の所見を伺います。

(岡本議長) 答弁を求めます。小林町長。

(小林町長) はい。先程の若桜町民に対するリフト料金の減額等についての町長の所見を伺うということでございますけども、ご質問にありましたとおり、町内の方の減少も気になるところでございますし、各学校での実施されるスキー教室なども、児童生徒数の減少やゆとり教育がなくなることに伴う校外学習の廃止など、スキーヤーの減少が懸念されているところでございます。氷ノ山スキー場のリフト利用について、町民にメリットを与えてはとのご質問でございますけども、若桜町でも以前は町民の方に5回券を配布したり、企業への優待券貸出しなどもしておりましたが、現在は行っておりません。ただし、現在でも、若桜小学校、中学校の児童生徒の皆さんには、1日券の500円割引を行っています。

難しいことですが、減少しているスキー客を増やす方法として何があるのか、指定管理者である観光事業団とも一緒になって検討をしてみたいとそうのように思っているところでございまして、1つの大きな問題は、1つはお客さんが落ち込んできて、どんどんどんどんサービス券を出してくると事業団もこうして景気がよくないものでございますから、収入が少ないという問題も浮かんできておりまして、いろいろ議論をこれまでからしておるといような状況でございまして、もう1回教育委員会あたりとも相談をしながら、議論をちょっと進めていきたいなという具合に思っておるところでございます。

(岡本議長) 前任孝行議員。

(前任議員) はい。私もそういった部分がちょっと気にはなっております、大山町さんは、本当全額高校生までも全額ただっていうことだったのでですけど、ちょっとあんまりただっていうのは、リフトにただで乗るのが当たり前みたいな感じになってしまって、ちょっと感謝する気持ちっていうのがちょっとなくなってくるのかなというふうに思うのです。それで、半額っていうのはどうかなっているように思います。他の町営の施設、プールや温泉などは町民は半額です。それで、今現在、その1日券の500円割引っていうことをされているんですけど、恐らくチケット売り場の人がバタバタするのではないかなというふうに思いますので、シーズン券に限りではどうでしょうか。今シーズンの子どものシーズン券というのが2万5,000円ということで、半額になる

とちょうど1万2,500円で、子ども手当1ヶ月分ちょうどで購入できる金額になるのです。

そういうふうなこともちょっと考えてもらって、地元のスキーヤーがこうやって増えて、家族でスキー場に来てもらえるっていうふうに思います。それで、高校生までっていうのもどうかなっていうふうに思ったのですが、また高校生までとすると、高校に行って、町外の友達っていうのができくると思います。そしたら、またその町外の友達を連れて来るっていうことも考えられるというふうに思います。それと、地元の選手育成っていうふうにもつながってくると思いますが、そのことについて、何か意見がありましたらお願いします。

(岡本議長) 答弁を求めます。小林町長。

(小林町長) はい。シーズン券の購入料金を半額にしてはということでございますけども、若桜町民にはシーズン券を半額にしたらどうかのご提案ですが、スキー場のように、町内のみならず、多くの町外者が訪れるような観光施設において、町内外の料金設定の差別化は、本当は望ましいことではないという具合に考えております。今シーズンは大雪に見舞われたわけですが、スキー場には雪があっても、来場者が少なくなっているのが現実でございます。先程も答弁しましたが、今後いろいろな角度から検討してみたいと思っておりますし、特に子どもたちということになると、子育て支援というようなことも加味したことがなんかできないかなと、そういうことも議論してみたいと思っております。

実は、スノーピアの購入分だけでも、大人が121枚のシーズン券出ておりますけども、そのうちの町内はたった9枚しか出てない。それから、子ども12枚シーズン券出ておりますけども、うち町内が1名というようなことで、この程度の町内の方のシーズン券は出ていないのが現実というような状況でございます。そういう面を捉えてみて、議論をしてみたいという具合に思っておるところでございます。何かにつけてでも、大変なわけでございますけども、子育て支援とか、あるいは、そういうようなことで、あるいはできればどうかなあと、例えば、子育て支援で町内の子どもについては、一般会計からその減額した分をもつというようなこともあるかも分かりません。いろいろな方法は考えられると思っておりますので、工夫のできる議論というのは、私は、これしていくべきだとそのように思っておるところでございます。

(岡本議長) 前任孝行議員。

(前任議員) はい。シーズン券の内訳なんかも教えていただきましてありがとうございます。本当に町内の子どもが1枚というのは寂しいなというふうに思いました。もし、これができたらということなのですけど、氷ノ山で大きく育ってきた子どもたちが、自然と氷ノ山の宣伝をしてくれるのではないかなというふうに思っています。2、3年前だったのですが、若桜出身のスキー選手の保護者がこういうふうに話されました。うちの子は全国のどのスキー場に行っても、氷ノ山出身の選手だっていうことを忘れないように、ホームグレンデは氷ノ山だって言っているというふうに話されました。後々は、氷ノ

山で恩返しできるような存在になってほしいというふうに話され、感動しました。

こんなふうに、話されるような町民が増えれば、自然にお客さんが増えてくるのではないかと思います。もし、本当にそういうことができれば、本当若桜町で子育てする他にない利点っていうのがはっきりしてくると思います。他の町の方からも、若桜はええなっていうふうに感じてもらえるのではないかと思います。また、これも、若者定住策の1つになるというふうに思います。それと、若桜町のために利益を、収入の話がありましたけど、上げないといけないという面からすると、やっぱりこれは反対の方向の意見なんかなというふうに思いますが、こうやって若桜を好きになってくれる環境づくりっていうのをしていくことが、長い目で見て集客促進につながるのではないかなというふうに思います。

最後に、道の駅の住民参加についてです。オープンから現在までの道の駅の住民参加者数の傾向を教えてください。

(岡本議長) 答弁を求めます。小林町長。

(小林町長) はい。前任議員の道の駅の住民参加数の傾向について伺うということでございますけども、道の駅の質問いただきました。道の駅のお客さんも鳥取自動車道開通後は減少しております、心配しているところでございます。特色ある道の駅にするためには、地元の住民の皆様によく参画していただくことが重要であると考えております。そこで道の駅の住民参加数の傾向についてですが、平成20年6月にオープンして以来、道の駅で管理している物品提供者には、約280の登録をいただいております。そのうち、町民の方やグループ数は170名と約6割を占めている状況でございます。初年度には多くの登録をいただき、その後も少しずつ増える状況ですし、各登録者の販売品も少しずつ増えてきている状況となっております。道の駅の販売額、販売所の売上金額のうち、町内者の売上額を見てもみますと、平成20年度は約2,200万円、40.10%、平成21年度は約2,300万円、36.65%、平成22年度の3月7日現在では、約2,200万円、37.95%と、ほとんど同程度の売り上げになっておると、そういう状況でございます。

(岡本議長) 前任孝行議員。

(前任議員) はい。町住民参加の数、増えているということなのですね。はい、そうですか。私自身はちょっと少なくなっておるのかなというふうに感じておりました。びっくりしました。

次の質問ですけども、集落での特産品販売や加工など、岩屋堂の方やさまざまな団体がされているというふうに思います。このようなことを各集落でも主体的にできるように集落対抗スローフード選手権なるものを開催してはどうでしょうか。今現在、道の駅で販売してもらおうように出荷しても10%やものによっては15%取られるという声を聞きました。そういった声が広がってしまうと、なら、出荷やめようかというふうになりがちです。そこで、集落の希望の土日1回を聞いて、売り上げの5%をそのときは道の駅さんが出品料としていただく。それで、その売り上げの一番多かった集落はラベルを付けて次の1年間、選手権優勝商品として売り出す、そういうことで集落も活

性化しますし、道の駅の利用者も増える。また、隠れたスローフードが表に出てくるといふふうに思います。このような住民参加型のイベントを考えてみてはどうでしょうか。町長の所見を伺います。

(岡本議長) 答弁を求めます。小林町長。

(小林町長) はい。集落対抗のスローフード選手権の関係について所見をということでございますけども、まず、岩屋堂の高齢者の方々が、生きがいづくりに畑で採れた野菜等を使って作った商品を不動院岩屋堂の大祭とか、あるいは観光客が来られたときに販売されたり、道の駅にも出品されたり、大変好評だとお聞きしておるところでございます。また、このグループの平均年齢が80歳とのことであり、道の駅が地域の活性化の一助になっていることも、大変うれしく思いますし、こうしたグループの活動が集落全体のものになれば、なお一層活性化につながりますので、皆様にはお元気で頑張っていただきたいなど、そのように思っております。

集落対抗スローフード選手権を開催して、販売額の多かった集落の販売手数料5%に、またその商品にラベルを付けて特産品として売り出してはとのご提案ですが、道の駅の役割としては、若桜町の産物を広く消費者に届けることであろうと思います。集落単位であろうと個人であろうと、平等に扱うべきと考えますし、また、道の駅の経営状況も厳しい状況でありますので、販売手数料を下げるのも難しいと考えております。私は、議員さんのご提案のことにつきましては、非常におもしろいなとそのようには思っておりますけども、現時点では、やはり各集落のわずかの方が少しずつの商品しか出てないというような状況も加味しますと、まだまだちょっと、こういうのを、取組みは早いじゃないだろうかという具合に思っておるような次第でございます。

(岡本議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。確かにそういった取組まれているところはさっと商品とかも出せると思うのですが、なかなか基盤がないところは、さらからは難しいかというふうに思います。でも、やっぱり何かそういったやってみようと思わせるようなことがないと、同じメンバーと言うか、同じ人たちで結局やってしまいうんじゃないかなというふうに思いましたので、ちょっと思いつきのような感じでしたが、何か行動を起こしていただけたらなというふうに思います。

それと、また、突拍子もない提案かもしれませんが次に移ります。ある方が提案してくれたんですけど、今後、給食センターを移転する計画があります。学校給食センターという位置付けの「学校」っていうのを外してもらって、そういった道の駅のお客さんにも限定10食などで、本日の給食をワンコインで食べてもらうようなことができないのでしょうか。おいしい給食をなかなか食べたくても食べる機会がありません。地産地消をしている現在のシステムでは、若桜の産物も食べることができます。ちょっとしたブームにもなると思われませんが、どうでしょうか。町長の所見を伺います。

(岡本議長) 答弁を求めます。小林町長。教育長、町長と前住議員が言われたもので。

(前住議員) はい、すいません、町長。

(岡本議長) 教育長の方にはお聞きしてない。

(前住議員) 町長。

(岡本議長) どっち。

(前住議員) 道の駅ということでちょっと町長にお願いできたらと思います。

(岡本議長) はい。町長。

(小林町長) はい、じゃあ。実は、質問の中に教育長もということがありましたので、私は、これは教育長の答弁かなと、学校給食ですから、そう思っていましたので、わざわざごさいますけども、町長と呼ばれましたので、答弁をさせていただきます。教育委員会では、現在、小中一貫校の開校に向けた準備を進めているところではありますが、老朽化の著しい給食センターにつきましても校舎整備に引き続き早い時期に、一貫校に隣接した位置に改築したいと、そのように考えておりました。改築にあたりましては、学校給食施設としての補助事業の活用を考えておりました。現時点では、学校給食法に基づく施設運営を想定しているところでもあります。学校給食法では、学校給食は児童生徒に対して実施される給食と定義されておりまして、一般の方へ販売できないのも認識しております。ただ、学校給食に関心を持っていただくことは、食育や地産地消の面からも大切なことと考えております。現在、学校や給食センターでも寿大学との交流給食や学校へお世話になった方々をお招きしての招待給食、親子給食などを行っているところでありまして、今後におきましても栄養士によるバランスのとれた献立を町民の皆様にも味わっていただく機会として以前行っておりました給食展示会の試食コーナー等の企画などが検討してみる方がいいんじゃないだろうかと思っております。

ただ、前住さんの発想は、私は素晴らしいと思っております。私、ちょっと考えたのが、道の駅で学校給食と同じようなメニューを出したらどうかなあと、これには、誰も法令には触れませんからと、そういうようなことも十分工夫してみるのも、これも1つかも分からないなど、そういうことも昨夜ちょっと思ったような次第でございますので、今の学校給食の中では、やっぱりそれはちょっと無理かなという具合に思っているような次第でございます。

(岡本議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。なるほど、そういう方法もあるのですね。ぜひ何かできたらなというふうに思います。3月15日の毎日新聞で掲載された「もみじカレー」のようにやっぱり再々、何らかの行動を起こすことが大切じゃないかなというふうに思います。こういったいろんなことを仕掛けていって、鳥取道ができたけ来んようになったわいやじゃなくて、鳥取道を使って若桜に来てもらえるような魅力ある町にしていけたらいいなというふうに思います。

以上で質問を終わります。